学会活動報告書

日本緩和医療薬学会
会期　2018 年 5 月 25 日～5 月 27 日
会場　東京ビッグサイト　TFTビル
参加者　ピノキオ薬局　三津屋店　山内惠太

☆参加の主旨　本学会を通じて薬剤師として緩和医療に関しての知識を深める

①　発表演題

当薬局におけるオクトレオチド製剤の使用実態調査
ピノキオ薬局三津屋店　山内惠太　蒔田皓和　三間昭平　石田準一
大垣在宅クリニック　雪田洋介
2018 年 5 月 26 日　示説16：15～
発表中に受けた質問として下記のような質問をいただいた

・ディスポーザブルでは損失が出るのではないのか？
→多少の損失は出るが処方としての償還があるため、大きな損失ではない

・TPNへの混注は安定性が問題では
→ディスポーザブルやシリンジポンプを使用する場合はほとんどが皮下注である。TPN混注は用時訪問看護などに実施していただくことで最小限のリスクとなるが、影響は否めない

②　参加演題

ランチョンセミナー　メサドンが支える外来・在宅医療
シンポジウム　緩和ケアを病院から地域へつなぐために～安心して自宅や施設で過ごすために　島根県が日本の標準となる～
教育講演　　地域包括ケア時代の緩和ケア～薬剤師が支える療養生活～
ランチョンセミナー　認知症をもつがん患者の支援

【考察】

緩和ケア領域では一昔前までは病院施設でのチーム医療などの演題が多かったが、今回の学会ではそれ以外にも地域医療や在宅ケアなどに焦点を絞ったシンポジウムや講演が数多く見られた。

特に島根県で運営されている地域医療は官民一体となって地域医療をサポートしている状況に目を見張るものがあった。この事業はがん患者が病院から在宅へシームレスに移行できるように取り組んでおり「出雲モデル」と称している。緩和ケアのチーム医療を実施するため、県下の支部ごとに拠点薬局を置いて知識・在庫の集約を行うことで速やかに対応するといったものであった。また特にハードルの高い持続皮下注射などに使用する機器は酸素業者による貸し出しなどを設定し、消耗品は県の事業（おそらく有限的措置）として賄われている。

島根県でのこういった取り組みは岐阜県全域に拠点をもつ当社でもわれわれを中心とした取り組みとしても取り入れることが出来る事業ではないかと考えられた。このような取り組みが可能となれば当社の地域での役割もより明確化できるものと考えられた。

③ 企業展示

アルフレッサ、エーザイ、ユヤマなど 13 社によるブース展示

エーザイによる「e お薬さん」の考察

在宅医療が進む中で、自宅での薬の飲み忘れ防止や飲み間違い防止を目的とした機器の開発が進んでいる。今回展示されていたエーザイの「e お薬さん」は 1 週間分（28 ケース）の一包化薬の搭載を可能としており、飲み忘れ、飲みすぎ防止機能は一般的なものとして付随している。また、担当薬局のみならず遠方の家族と専用クラウドを利用して情報共有が出来る。こういった服薬支援機器は数社から開発はされてい入るが、導入コストやランニングコストが高額であり、薬局での導入に躊躇する場面も多い。

今回、エーザイ担当者からはこれらの機器をフランスベッド（介護ベッドなど大手）と契約し、機器メンテナンスやレンタル料の管理などを委託するとのことであった。したがって、薬局として導入費用やメンテナンス費用などを負担する必要がないことは非常に有用性が高い。こういった機器を利用して地域医療を充実させようとする当社においてはぜひとも利用できるルートを確保したいツールの一つであると考えられた。

④ 岐阜緩和ケアに携わる薬剤師親睦会

岐阜県下で緩和ケアに従事し、本学会に参加した先生方約 20 名との親睦会を行った。参加された先生方は大学病院・岐阜市民病院・日赤病院・恵那市民病院・木沢記念病院など錚々たる顔ぶれであった。その中で薬局からの参加は弊社からの 1 名のみであった。会合中にはピノキオ薬局が岐阜県下で緩和ケア領域では先進的な位置づけにあるものとの評価も頂いた